

【追悼文】

眞野喜洋前代表理事を偲んで

学会代表理事 川嘉 眞人

この度は、眞野喜洋・日本高気圧環境・潜水医学学会前代表理事の訃報に接し、誠に胸のつぶれる思いで驚愕しました。あまりにも突然の逝去のために言葉を失っています。

眞野先生は1969年東京医科歯科大学を卒業されましたが、学生時代から潜水病の研究をされておられた梨本一郎先生（後に埼玉医科大学教授・名誉教授）の下で高気圧医学の研究を続け、さらに海底居住の実験などにも参加し、30メートル、50メートル、100メートルと深海潜水の新しい展開などについても研究協力をしていました。1974年東京医科歯科大学大学院を卒業、医学博士を取得後東京医科歯科大学衛生学教室の助手、2001年同大学大学院保健衛生学教授に就任された。2001年には同大学学長補佐、2005年同大学附属病院高気圧治療部長、2007年には大学院保健衛生学研究科長に就任し、大学同窓会の会長としても同大学の発展に大きな貢献をしました。

先生は潜水医学、高気圧医学の領域のパイオニアとして目覚ましい活躍をされ、1970年日本高気圧環境医学会の評議員、1974年理事に就任、2005年には日本高気圧環境・潜水医学会代表理事として、本学会の発展、充実に多大なる貢献をしてみられました。

先生は海外においても1973年Undersea Medical Society (U.S.A.) Executive Committee, 1987年European Underwater & Baromedical SocietyのAdvisory Boardに就任するなど日本を代表する、潜水医学・高気圧医学の研究者としても広く認められるようになりました。

先生の研究は潜水医学の基礎から応用に至るまで深く広く行われており、著書『潜水医学』（朝倉書店、1992年）は潜水医学のバイブルといってもよいほどの内容です。

特に海外の減圧表や減圧症治療法を紹介するために、1987年にはU.S.Navyダイビング・マニュアル（朝倉書店）、1996年にはNOAA（米国海洋大気局）（社会スポーツセンター）を翻訳出版しています。先生の潜水における安全性の研究は政府の審議会においても活躍の場を与えられ、1970年には日米天然資源開発会議・潜水技術部会専門委員、1992年には混合ガス利用における圧気潜函工法の健康障害防止に関する調査研究委員、1997年より国際単位系への移行に伴う高圧則改定などに関する調査研究委員を務め、近い将来日本の潜水、潜函作業において新しい減圧表や混合ガスの導入が行われる道を開きました。

1992年、レジャーダイバーの安全と緊急治療の道を開くためにDAN (Diver Alert Network) Japanを創立し、自ら会長として、組織の運営のみならず、国際DANとの連携を推進されました。

潜水医学における微小気泡の研究はやがて2012年日本マイクロ・ナノバブル学会の創設へと発展し、自ら理事長として医学領域のみならず農業、水産、工業における道を切り開いてきました。

眞野先生の膨大なご業績はとても語りつくせるものではありません。今日の高気圧医学、潜水医学のほとんどの領域において先駆的な研究を行い、私たちを強力にリードし、国際的にも高い評価を得られた事は私たちにとって誇りであり、希望のシンボルでありました。この偉大な指導者を失ったことは痛恨の極みです。

これからも眞野先生のあの豪快な笑顔、元気のよい声をいつも思い起こして、日本の高気圧・潜水医学を一步でも前へと発展させていく事で、先生のご期待に応えて行きたいと思っています。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。